# りゅうぎん平成13年3月期決算の概要をお知らせします

りゅうぎんの進むべき方向性

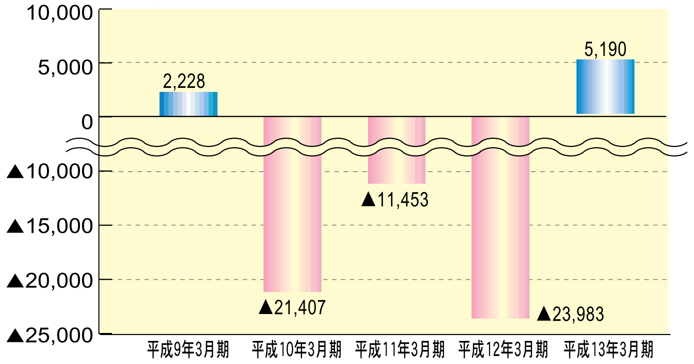
## まかせてバンク

りゅうぎんは、当行の目指すべき将来像として**「まかせてバンク」**を提唱しています。「まかせてバンク」とは、文字どおり、お客さまのすべてをおまかせいただきたいとの意味です。今後、りゅうぎんは「必要なときにはいつもそばにりゅうぎんがある」という新金融サービス業をめざし「かゆいところに手が届く」サービスの提供を目指していきます。

## Q1 平成13年3月期の決算について教えて下さい

**A** 平成13年3月期は、バブル期の不良債権処理が概ね完了し、貸出金償却額が大幅に縮小したことや経営効率化の進捗により、経常利益は47億37百万円、当期利益は当行史上最高の51億90百万円となり、4年振りに黒字を計上することができました。なお、当期は直接・間接の貸出金償却を合わせて55億27百万円(うち信託勘定11億11百万円、一般貸倒引当金繰入額を含む)の不良債権処理損失を計上しました。
また、上記収益状況の改善により平成11年度中間期より凍結していました株式配当を今年度より一部復活しました。

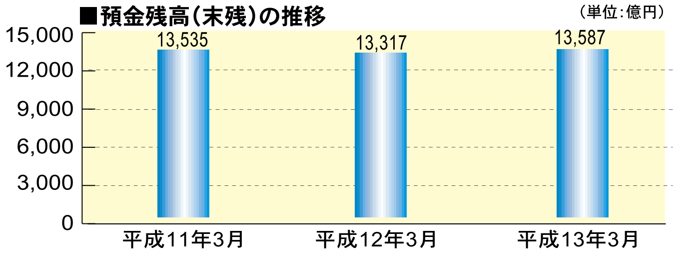
■当期利益 (▲は当期損失) (単位:百万円)




## Q2 預金や貸出金は増えていますか?

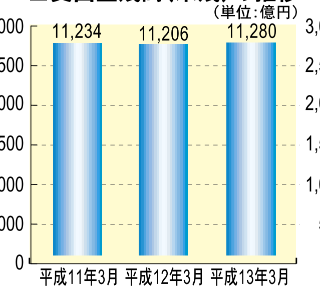
**A** 預金面では、流動性預金、定期性預金ともに増加した結果、銀行勘定の期末残高は前年度比498億円増加し1兆2,121億円となりました。また、金銭信託に関しましては低金利局面の継続の影響で商品優位性が薄れ前年度比227億円減少し1,466億円となりました。銀行・信託勘定合計残高では前年度比270億円増加して1兆3,587億円となりました。

■預金残高(末残)の推移 (単位:億円)

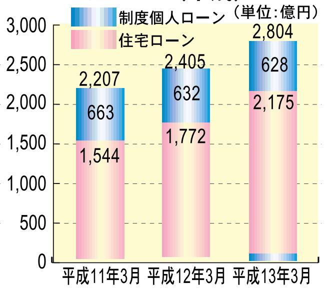



**A** 貸出面では、長引く不況の影響で企業の資金ニーズが低迷しましたが、住宅ローン・制度個人ローンを中心に積極的な融資推進活動を展開した結果、銀行勘定の期末残高は前年度比268億円増加の1兆316億円、信託勘定は前年度比194億円減少の964億円、銀行・信託勘定合計では前年度比74億円増加して1兆1,280億円となりました。
特に住宅ローンの伸び率は九州地銀でトップ(全国2位)となり、個人ローン(含む住宅ローン)全体でも伸び率で九州地銀トップ(全国5位)となりました。

■貸出金残高(末残)の推移 (単位:億円)



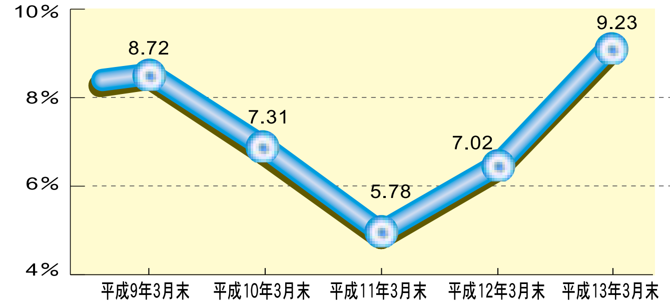

■個人ローン(末残) (単位:億円)




## Q3 安心できる銀行は、どこを見ればわかりますか?

**A** 銀行の経営が健全かどうかをみる重要な指標の一つとして、財務内容の健全性を示す自己資本比率があり、同比率が高いほど健全性は高いといえます。当行のように海外に店舗を持たない銀行は、その数値が4%以上(国内基準)であることが要求されています。
平成13年3月末の当行の自己資本比率は、公的資金400億円が優先株式に転換された結果、12年3月末に比べ2.21%上昇し、9.23%と大きく向上しました。

■自己資本比率(単体)の推移 (単位:%)




## Q4 不良債権の処理は大丈夫ですか?

**A** 当行は、金融検査マニュアルに基づき、厳格な自己査定を行っています。なお、金融再生法に基づく開示債権の保全率(引当金・担保等を含む)は73.7%で、特に破産更生債権等は100%、危険債権は77.4%となっています。(下表の不良債権は直ちに損失となるものではなく、回収が見込まれる債権や将来正常債権となる可能性のある債権も含まれています。)

●**「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは…**
「破産、特別清算、民事再生等の事由により、経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権」です。

●**「危険債権」とは…**
「債務者が経営破綻の状態には至っていないものの、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権」です。

●**「要管理債権」とは…**
「3カ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権」です。

■開示債権の状況

| | 13年3月末実績 | 保全額 | 保全率 |
|---|---|---|---|
| 破産更生債権及びこれらに準ずる債権 | 323億円 | 323億円 | 100% |
| 危険債権 | 683億円 | 529億円 | 77.4% |
| 要管理債権 | 458億円 | 227億円 | 49.6% |
| 合　計 | 1,465億円 | 1,080億円 | 73.7% |

## Q5 経営の健全化のための計画(健全化計画)の履行状況は?

**A** **利益計画**に関しましては、低金利の継続による有価証券利息の低迷、経費削減の計画比未達などから、業務純益、経常利益は計画を下回りましたが、当期利益は税効果の影響などから計画を上回りました。

**A** **ボリューム計画**に関しましては、預金は平残ベースで計画を達成しました(末残ベースは目標設定なし)。貸出金につきましても平残ベースでは計画を上回りましたが、末残ベースでは、年度後半に景気の先行きが不透明となったことから資金ニーズが低迷し未達成となりました。

**A** **リストラ計画**は、行員数では健全化計画を上回る削減を実現したほか、店舗の統廃合もエリア制度の定着とともに、計画どおり進捗しています。

■収益項目の達成状況
(当期利益ベースでは計画を達成) (単位:億円)

| | 13/3月期 健全化計画 | 13/3月期 実　績 | 差　異 |
|---|---|---|---|
| 業務純益 (修正業務純益) | 112 (123) | 101 (106) | △10 (△16) |
| 経常利益 | 66 | 47 | △18 |
| 当期利益 | 42 | 51 | 9 |

(注)修正業務純益:一般貸倒引当金繰入前、信託勘定償却前の業務純益

■ボリュームは順調に拡大推移
(銀信合算ベース) (単位:億円)

| | 13/3月期 健全化計画 | 13/3月期 実　績 | 差　異 | 達成率 |
|---|---|---|---|---|
| 貸出金(平残) | 10,805 | 10,896 | 91 | 100.8% |
| 貸出金(末残) | 11,448 | 11,376 | △72 | 99.3% |
| 預　金(平残) | 12,987 | 13,175 | 188 | 101.4% |

(注)貸出金(末残)は直接償却等の減算要因を修正した実勢ベース

■リストラの進捗状況

| | 11/3月期 実　績 | 13/3月期 健全化計画 | 13/3月期 実　績 | 11/3月期 実績比 | 13/3月期 計画比 |
|---|---|---|---|---|---|
| 人員数(人) | 1,687 | 1,450 | 1,414 | △273 | △36 |
| 店舗数(店) | 68 | 63 | 61 | △7 | △2 |
| 人件費(億円) | 137 | 103 | 109 | △28 | 5 |
| 物件費(億円) | 92 | 90 | 91 | △0.6 | 0.5 |

(注1)人員数は役員・嘱託・パートを除く
(注2)11/3月期は、健全化計画策定直前期です。

## Q6 今後の業績見通しについて教えて下さい

**A** 今後の収益計画の見通しとして、平成13年度(14/3月期)までは低金利が続くものと見込んでいますが、リストラ策の効果や貸出の増加による資金運用収益の増強により、**業務純益**は平成14年度(15/3月期)で130億円程度となる計画を立てています。また、平成16年度(17/3月期)は金利の上昇から業務粗利益が増加し、150億円超の業務純益を達成する計画です。
**経常利益**につきましては、平成13年度で緊急経済対策への対応を済ませることで、平成14年度以降の不良債権処理が30億円~40億円程度に落ち着くことから、以降110億円前後を見込んでいます。
**当期利益**につきましては、平成13年度以降60億円~70億円程度で安定的に推移する見込みです。

■収益計画 (単位:億円)

| | 13/3月期 実　績 | 14/3月期 計　画 | 15/3月期 計　画 | 16/3月期 計　画 | 17/3月期 計　画 | 13/3月期 実績比 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 業務純益 (修正業務純益) | 101 (106) | 120 (136) | 132 (150) | 139 (144) | 155 (158) | 54 (52) |
| 経常利益 | 47 | 63 | 114 | 105 | 119 | 72 |
| 当期利益 | 51 | 61 | 70 | 64 | 72 | 21 |

(注)修正業務純益:一般貸倒引当金繰入前、信託勘定償却前の業務純益